

がんと自殺，A病院における検討

小室龍太郎[†]第77回国立病院総合医学会
2023年10月21日 於 広島

IRYO Vol. 79 No. 2 (83-87) 2025

要 旨

【目的】2022年8月に通知された「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」で、「がん患者の自殺リスクに対し、院内で共通したフローを使用し、対応方法や関係職種との連携について明確にしておくこと。」が示された。A病院のがん患者における自殺関連行動について精神心理的介入の影響を検討する。【方法】200X年4月以降200X年+20年3月までのA病院診療録から著者が調査しえたA病院入院中のがん患者における自殺企図症例7例（既遂3例，未遂4例）を対象とし，精神心理的介入（200X+5年～SHARECST 個別開催・PEACE 開催による医師の告知技術の向上，がん患者指導管理料算定によるがん告知時から告知後の継続したサポート，医療安全対策）効果について検討する。【結果】自殺関連行動は介入前2例，介入後5例あった。既遂は3例（介入後は2例），未遂は4例であった。200X+5年以降200X+20年までの院内がん登録数（初診）は11,542例であった。介入開始前は明確なデータがなかったため検討から省いた。自殺関連行動発生の間隔は介入前953日，介入後平均1,163.8日であった。【考察】症例数が少ないため統計的な有意差は出ないが，自殺関連行動発生の間隔は介入開始により発生の間隔が延びていた。SHARE-CSTをはじめとする事前介入を今後も続け，自殺関連行動を減少させたい。

キーワード がん，自殺，精神心理的介入

はじめに

2022年8月に通知された「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」で、「地域がん診療拠点病院の指定要件：2診療体制（3）その他の環境整備等④がん患者の自殺リスクに対し，院内で共通したフローを使用し，対応方法や関係職種との連携につ

いて明確にしておくこと。」が示された。A病院におけるがん患者の自殺について後方視的に検討しA病院のがん患者における自殺関連行動について，精神心理的介入の影響を考察した。なお本研究は金沢医療センター倫理委員会の承認を得た（受付番号：R05-029）。倫理面に配慮し匿名化した。

国立病院機構金沢医療センター 緩和ケア内科 [†]医師
著者連絡先：小室龍太郎 国立病院機構金沢医療センター 緩和ケア内科医長
〒920-8650 石川県金沢市下石引町1-1
e-mail：komuro.ryutaro.wc@mail.hosp.go.jp
(2024年3月14日受付 2025年2月21日受理)
Cancer and Suicide: A Study at Hospital 'A'
Ryutaro Komuro
NHO Kanazawa Medical Center
(Received Mar. 14, 2024, Accepted Feb. 21, 2025)
Key Words：cancer, suicide, psychosomatic interventions